

新課程における共通教科情報の教科書に関する特徴(社会と情報)

出版社	番号	教科書名	特徴
東京書籍	社情301	社会と情報	授業に合わせて教科書の内容を選択することができるよう、教科書を実習編と理論編の2部構成にしました。また、授業に必要な内容をすぐに探し出せるように、用語集と索引に多くの語句を収録しました。
			実習編は、1時間で完結する扱いやすい実習を中心に構成し、フリーソフトについてはソフトウェア名を記載しました。(8ページほか)
			生徒の興味を喚起するために、クイズやゲームの要素を加味した実習を設けました。(4～5ページほか)
			理論編各章の最後には、生徒が章の知識を確認するためのまとめと章末問題のページを設けました。(82～83ページなど)
			基本的な内容や重要な資料は、何度も繰り返して扱うことを想定して、巻末の資料編にまとめました。(138～160ページ、⑧)
			情報モラルマークやリンクマーク、Q&Aなどを設けて、教科書の機能性を高めました。(1ページ「この本の使い方」を参照)
			中学校における情報教育の指導時数減に対応するため、ソフトウェアの基本操作を意識した実習を設けました。(10～15ページほか)
			教科書全体を通してカラーバリアフリーを含むユニバーサルデザインに配慮して編集しました。裏表紙にその旨を記載しています。
実教出版	社情302	最新社会と情報	例題を中心に学習事項を展開した授業と一体化した紙面展開
			図解や写真・表を多用した紙面レイアウト
			統計的な手法を取り上げるのと一緒にグラフに関するリテラシーを丁寧に扱った
			セルへの入力や相対参照・絶対参照など基本的なことから関数の使い方まで様々な内容を例題で取り上げるなど表計算ソフトについては特に丁寧に扱った
			メール・SNSなどインターネットのサービスや個人情報・著作権、メディアなどについて、身近な題材を取り上げた
	社情303	高校社会と情報	2ページなどの見開きで完結するテーマ学習を中心とした紙面展開
			学習指導要領の内容を50項目のテーマに整理・再構築した配列
			小さな素数を使ってRSA暗号を実習するような内容など科学的な側面も取り上げた
			論文のまとめ方(小論文)や統計的な手法(数学I)、法規(現代社会)など情報に関連する他科目の内容を取り上げた
			変遷が激しいコンピュータに関する分野の中で、普遍的な知識を正確で詳細に説明するようにした
数研出版	社情304	高等学校社会と情報	<ul style="list-style-type: none"> ○できるだけ身近な事例や最新の事例を取り上げ、興味を持続して学習できるようにしました。(例:Facebook, Twitter, ジオタグなど) ○学習の進度に応じて、実習を豊富に入れ、知識や技術の整理・確認をしながら、実践力や応用力を養えるようにしました。 ○「社会と情報」でも、2進数・デジタル化の原理をしっかり扱っています。 また、携帯電話の扱いの注意点、情報機器の使用時の注意点も扱っています。 ○検索エンジンの使い方・メディアの意味を序編で詳しく扱っています。実物大のキーボードを掲載し、日本語入力の再確認ができるようにしました。

新課程における共通教科情報の教科書に関する特徴(社会と情報)

出版社	番号	教科書名	特徴
開隆堂	社情 305	社会と情報	情報モラルに関する内容に46ページを割り当て、詳しく、丁寧に解説しました。教科書だけで十分な情報モラルの学習に取り組みます。また、情報モラルに関する身近なトラブル事例を、18事例取り上げました。2コマのイラストで分かりやすく掲載し、楽しく学ぶことができます。
			学習項目の冒頭には「学習の目標」を記載し、目的を明確にしてから学習に入れるようにしました。また、冒頭に「投げかけ」も記載し、学習内容に入りやすくするための投げかけをおこなうようにしました。
			視覚でも理解しやすいように、特徴的な見開きのページを数箇所に取り上げました。
			各章の章末には、学習内容をふり返って確認するための「要点のまとめ」や「章末問題」などを掲載しました。
			巻末には「情報関連法令資料」を4ページ、「用語集」を8ページ分掲載しました。学習を補助する資料としてご利用いただけます。
日本文教出版	社情 306	社会と情報	<ul style="list-style-type: none"> 資料性の高い教科書を目指しました。基礎基本から新しい技術や考え方まで幅広く扱っています。 序章では、最初の授業で使える導入教材として知識とスキルのチェックリストを設けました。 全体の1/3～1/2程度を実習に配当することを想定し、バリエーション豊かな実習を用意しています。 終章の問題解決に取り組むための基礎を養うため、各章末に「アカデミックスキルズ」という実習を用意しています。 情報社会の課題をテーマに討議する学習を想定し、3章の各節末に「視点・論点」を設けました。 終章「情報社会と問題解決」は従来の日文教科書の「総合実習」の理念を引き継ぐものです。
	社情 307	見てわかる 社会と情報	<ul style="list-style-type: none"> 「見てわかる」教科書を目指し、本文を3行に留め、学習内容の大半をイラストで示しました。 基本的なアプリケーションソフトウェアの操作を取り扱う「練習問題」を豊富に用意しました。 操作実習では、完成イメージを示し、丁寧に操作手順を追うことで、誰でも課題を達成できるように配慮しています。 イラストでの解説を補強するために、章末に「内容の整理」と「章末問題」を置き、知識の定着をはかっています。 本文脚注に示した用語のうち、特に重要なものは下線を引き、巻末の「用語解説」でまとめて説明しています。 章扉の「YES-NOチャート」は生徒が情報機器との関わりを思い起こしながら自己評価を行う際に活用できます。
第一学習社	社情 308	高等学校 社会と情報	<ol style="list-style-type: none"> 情報モラルの育成を重視し、次のような点に配慮した。 <ul style="list-style-type: none"> 被害者にならないための「安全」と、加害者にならないための「倫理」の両面について、その背後にある「しくみ」を理解させることをねらいとした。 高校生が自分の問題としてとらえられるように「ケーススタディ」を取り入れ、具体的な場面においてどのような行動をとればよいかを考えられる機会を設けた。 情報をただしく受け取り発信するために必要な、グラフや統計の基礎知識を学習できるようにした。 高校生が学習しやすいように、丁寧な記述と親しみやすい紙面との両立をはかった。また、章末には「まとめ」と「章末問題」を設けて、学習内容の定着を確認できるようにした。 体験を通じた理解ができるように、PCを使う実習、PCを使わない実習を、バランスよく取り入れた。 高校生の興味や関心、学習の進行状況等に応じて、「情報の科学」の内容も取り入れられるように、「発展」を設けた。